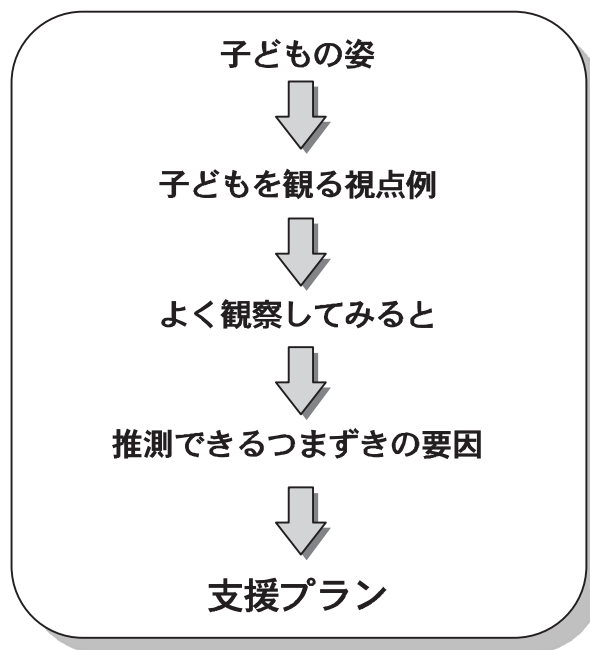


第4章

ワンポイント支援 ～ こんなとき どうする？ ～

第4章では、特別な支援を必要とする子どもの困難さをどう理解し、どのように支援を具体化していったらよいかを紹介します。ただし、「このような支援さえすればよい」という確定的な支援法を示しているわけではありません。実際の支援方法は、個々の子どもによって、異なります。

ここでは、支援を考える際、以下の流れを大切に考えています。



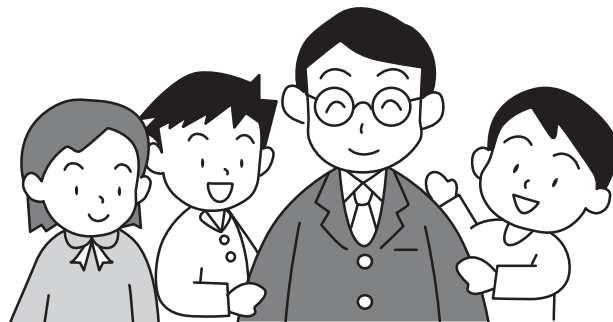
目の前にいる子どもが、どのようなところを難しいと感じているのか、なぜつまずいているのかを考え、子どもの特性だけではなく、教師側の対応や学習環境なども踏まえながら、つまずきの原因や背景を探り、支援プランを立てていくことが、適切な支援を具体化することにつながります。

そして、その具体化した支援を実際に行い、子どもの姿から支援の有効性を振り返り、評価することにより、より適切な支援へと発展させていきましょう。

先生方のクラスの子どもに、こんな様子は見られませんか？

- 1 ひらがなの習得が難しい
- 2 漢字を覚えることが苦手
- 3 音読が苦手
- 4 作文に対する抵抗感が強い
- 5 意味の理解や推論することが苦手
- 6 注意の持続が難しい
- 7 グループ活動が苦手
- 8 形の特徴をつかむことが難しい
- 9 文章題が苦手
- 10 指示の通りに動くことが難しい
- 11 ことばで相手に伝えることが難しい
- 12 整理整頓が苦手
- 13 衝動的な言動が多い
- 14 興味・関心に偏りがある
- 15 場面の切り替えが難しい
- 16 予定変更の受入れが難しい
- 17 行動が遅い
- 18 忘れることが多い
- 19 授業中に席を離れてしまう

学習面や行動面で支援を必要とする子どもの姿に近い事例をご覧いただき、参考にして、支援プランを立てる際のヒントにしていいただければと思います。



1

ひらがなの習得が難しい

ヒトシさんは、ひらがなの文章を読んでいる時に、声が小さくなったり、黙り込んでしまったりします。また、文章を書き始めても、途中でやめてしまう様子が見られます。

子どもを観る視点例

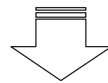
- 読んだり書いたりしている時に困っている様子が見られるか。
- 速さは、他の子どもと比べてどうか。
- 聞いたり話したりする力はどうか。
- 教科書以外の本を自分から読んでいるか。
- 苦手とするそれぞれのひらがなに共通点はあるか。



よく観察してみると

図書館では、開いた本の文字を指で追いながら、声を出さずに口を動かして、楽しそうに読んでいるので、読むことに興味はあるようです。音読の場面で、黙り込んでしまうと、担任をチラチラと見ているときもあります。ひらがなカードで遊んでみると、「れ」を見て「ね、って読むんだっけ」と、首を傾げたり、「わ」を書くときも、「わ、わ」と、繰り返して言いながら、空書きをして思い出そうとしたりしています。

推測できるつまずきの要因

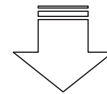


似た形のひらがなを区別することが苦手（「ね」と「わ」など）

文字と音を結びつけることが苦手

読み方が分からないことを言い出せずに困っている

支援プラン



- 線や形の違いを見分けられるように、モールや粘土等で文字を作る活動を取り入れていく。
- 自分の言葉で表すことで、記憶しやすいように、形の似た文字の違いを「ねこのしっぽは、クルン」などと伝える。

- 発音された文字は、どの文字カードであるかを確認できるように、カードゲームを取り入れる。
- 聞き取った言葉と逆の順に、文字カードを並べ替えることなどを一緒に楽しむ。

- 分からなくて困ったときに、ハンドサイン等の合図で、伝えることをクラス全体に示し、誰でも意思表示をしやすい雰囲気づくりをする。
- まずは、グループ学習で、友だちに質問するという内容を取り入れてみる。

漢字を覚えることが苦手

2

ユカリさんは、宿題の漢字練習を欠かさず行っていますが、漢字テストで10問中3問程度しか正解しないことが続いています。日記などでは習った漢字をあまり使用せず、書いた漢字には細かい間違いが多くあります。

子どもを観る視点例

- 読みにつまずきはないか。
- 漢字だけでなく、ひらがなも間違えるのか。
- 間違いやすい漢字に共通点はあるか。
- 黒板の板書を視写するのに時間がかかっているか。
- 書字、工作、運動などに不器用さがあるか。



よく観察してみると

ユカリさんの作文を丁寧に見返してみると、例えば「矢」を「失」と書くなど漢字の細かい部分を間違えたり、編とつくりを逆に書いてしまったりしていました。

板書を視写する時は、何度も黒板を見て1文字ずつ写しているため、時間がかかってしまいます。また、字がマスからはみ出て、何度も消したり書いたりするなど、手先の不器用さが感じられました。

推測できるつまずきの要因

手、指先の巧緻性にぎこちなさがある

図形や文字の形を見て、記憶することが苦手

細かい部分の形や線の重なり等を正確に捉えることが難しい

支援プラン

- 鉛筆用グリップや大きな消しゴムなど、使い易い筆記用具を用意したり、鉛筆の持ち方や姿勢を確認したりする。
- マス目の大きなノートや、罫線入りの用紙を準備しておき、必要な時は誰でも使えるようにしておく。
- 少しずつ自信をつけていくように、おおらかな採点を行い、個別に配慮をする。

- 板書と同じ内容のプリントなどを手元に用意し、確認しやすくする。
- ワークシートを使って書く負担を減らし、授業内容の理解や問題を考えることに集中できるようにする。
- 漢字の成り立ち・イメージを説明したり、「立って木を見る親」などと言葉で意味付けたりする。

- 同じような形の漢字を示し、どこが違うのか気づかせる。
- 「ノを書いてよこ、よこ、最後に人を書く⇒矢」など、書き順や組立てを言語化して書く。
- 漢字のパーツ毎に色を変えて示すなど、漢字の組立てを分かりやすく示す。

3

音読が苦手

ミュキさんは、音読の時に、なかなか読み始めなかったり、小さな声で、たどたどしく読んだりします。読み間違えることもよくあり、先生からは、「よく見て読もう」と声掛けをされています。

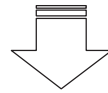
子どもを観る視点例

- 決まった文字や文末などの読み間違いのパターンがあるか。
- 自分で読みやすいように何か工夫しているか。
- 友だちの音読に合わせて、文章を目で追っているか。



よく観察してみると

読む順番になっても、どこから読んだらよいのか困っていることが多いです。文字や行をぬかしたり、同じところを読んでしまったりすることがあります。また、言葉の途中で区切って読んだり、指で文字を押さえながら読んだりしている時もあります。



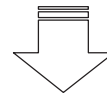
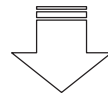
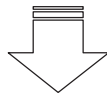
推測できるつまずきの要因

目で文字を追うことが困難

読む箇所にご注意を払って見ることが難しい

言葉のまとまりが分かりにくい

支援プラン



- 文字を指で押さえながら読むなど、様々な方法があることを紹介する。
- 一文読みから慣れていけるように、文字数の少ない文章を示す。
- 顔を動かさずに追視ができるように練習してみる。

- 一行分だけのスペースを切り抜いて作った補助シートを教科書に当てて読めるようにする。
- 文字の書体や大きさを変えたり、行間を空けたりして、どのような形式が読みやすいかを工夫する。

- 文節の区切りごとに斜線を引いたり、色で強調したりして、単語のまとまりを見つけやすくする。
- 単語が書かれたカードを見て、すばやく読み取ることを楽しめるような時間をつくる。

作文に対する抵抗感が強い

4

ケンジさんは、作文や日記を書き始めるまでに、とても時間が掛かります。書く文章は、いつも2~3行で、パターンが決まっていることが多く、書字も乱雑になってしまいます。

子どもを観る視点例

- 文字を書くことを面倒がっていないか。
- 会話での表現力はどうか。
- 経験した内容を具体的に覚えていられるのはどのくらいか。
- ひらがなや漢字を書く様子はどうか。



よく観察してみると

「何をしたか忘れた」と口ぐせのように言い、何を書いたらよいのか、なかなか分からない様子です。文を書いても、出来事の羅列となります。しかし、資料や写真を見ると、「ここに〇〇があった」と、話し始めます。また、書き方では、文字の大きさがそろわずにマスからはみ出すことも見られます。

推測できるつまずきの要因

経験したことを思い出すことが苦手

文字を書くことへの苦手意識

文章を順序立てて構成する力が弱い

支援プラン

- 経験したことを想起できるように、手掛かりとなる写真や資料を見せる。
- 話すことを聞き取って、文章にして示す。
- 「～の時は、どうだった？」等、会話をしながら文章をふくらめていく。

- ノートや原稿用紙のマス目や罫線は、書きやすい大きさや幅にする。
- 正しい書き順や漢字の使用を最初から要求せず、書くことができれば、称賛する。
- 鉛筆や消しゴムは、使いやすい物を用意する。

- 「はじめに」「つぎに」「それから」「おわりに」などの文章のパターンを示す。
- 「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」など、基本的な文章の書き方を示し、それぞれの項目について思い出したことをメモする。

意味の理解や推論することが苦手

ハルキさんは、友だちとかかわりたい気持ちは強いのですが、つい友だちの気持ちを傷つけるようなことを言ってしまう、トラブルになることが多くあります。

子どもを観る視点例

- 相手の表情や口調から気持ちを察しようとしている様子はあるか。
- 一方的に話しているような様子は見られるか。
- こんな時には、どうすればよいかという判断は、どの程度できるか。



よく観察してみると

ハルキさんは、とても人なつこく自分から積極的に友だちに声を掛けるのですが、相手の返事を聞かずに、どんどん話を進めることがあります。また、相手が嫌そうな顔をしていてもやめることがなかったり、「秘密ね!」と言われた話も、他の人がいても平気で話してしまったりすることもあります。

推測できるつまずきの要因

その場面の状況の理解が難しい

相手の表情や口調が読み取りにくい

相手の気持ちが分かりにくい

支援プラン

- なぜトラブルになったのかを双方の気持ちや状況をイラストや文字などで表すなど、本人が理解できる方法で説明する。
- 4コマ漫画やアニメ等の場面を見せながら、状況の変化について実況中継のように伝える。
- わざと気持ちを傷つけるようなことをしているのではないことをクラスの友だちに伝える。

- 表情が描かれたイラストや写真を用いながら、「こんな顔の時は、どんな気持ち?」と聞き、少しずつ表情と気持ちを結び付けられるように練習をする。
- ジェスチャーゲーム等で、身振りや表情から、相手の感情や雰囲気を読み取る練習をする。

- 相手を傷付ける言動があったときには、表情カード等を用いながら、相手の気持ちを考える機会をもつ。
- 状況に応じた振る舞いや言い方について、具体的なモデルを示しながら、教えていく。
- 本人が困ったり分からなかったりしことはメモをさせ、一緒に対応について考える。

注意の持続が難しい

ミチコさんは、授業中に挙手をして発表をすることもあります。何もせずに、ぼーっとしていることもよくあり、課題に集中して取り組むことが難しいです。

子どもを観る視点例

- キョロキョロと辺りを見回したり、ソワソワしたりしていないか。
- 取り組みが難しくなる時間や課題の量は、どのくらいか。
- 何をするのかという内容を理解できているか。
- 集中できている学習や活動に共通点はあるか。



よく観察してみると

最初のうちはスムーズに取り組んでいても、途中で何か物音がしたり、動きが見えたりすると、そちらに気を取られてしまいます。また、一定の学習量や時間を超えると、何もせずにじっとして、指示をしても、取り掛かりに難しい様子が見られます。

推測できるつまずきの要因

掲示物や音、周囲の動きに敏感に反応してしまう

集中できる時間が短い

一度、気をそがれると、見ていたところ、考えていたところに戻りにくい

支援プラン

- 注目しやすいように、教室の前面や黒板の周囲をすっきりとする。
- 机の上に出す物や置く位置を図示するなどし、余計な物を出さないようにする。
- 座席は、刺激の強い窓側や出入口を避け、指示が伝わりやすい位置にする。

- 授業前に、学習の流れや課題をはっきりと提示し、見通しをもちやすくする。
- 一度に取り組む問題数を数問ずつに調整したり、自分で選んだりする。
- タイムタイマーなどで、時間的な見通しや目標を持ちやすくする。
- 気持ちの切り替えができるように、授業中に配り係を任せるなどする。

- さりげなく指差しをしたり、考えるべきことを声掛けしたりしていく。
- 自分でチェックしながら確かめられるように、学習や活動の手順表を作る。
- 一度に一つずつの課題を把握しやすいように、ふせん等を活用する。

7

グループ活動が苦手

ミツルさんは、授業でグループ活動をする時に、いつの間にかグループの輪から離れていることがよくあります。また、休み時間に一緒に遊ぼうと誘われても友だちの輪に入らずに、一人で本を読んでいることが多いです。

子どもを観る視点例

- 友だちの話に興味を示し、聞こうとしているか。
- 自分が話す場面では、どんな様子が見られるか。
- グループ活動でやるべきことを理解しているか。
- 日常生活の中で、行動の手掛かりにしているようなことはあるか。



よく観察してみると

グループでの話し合いの場面になると、困ったような顔をして、何も言わずに下を向いてしまうことが多くあります。自分が体験したことを話す場面や、メモを見ながら話す場面では、少し話をする事ができます。休み時間などは、自分から話し掛けて友だちの輪に入ることは少なく、一人で本を読んでいることが多く見られます。

推測できるつまずきの要因

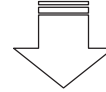


あいまいな状況だと、どうしたらよいか分からない

友だち関係がうまく築けない

分からないときに、聞くことが難しい

支援プラン



- 手掛かりとなる具体物や写真を目の前に置くことで、関連する言葉やイメージを引き出しやすくする。
- あらかじめ、「いつ・どこで・どのように」などの要点で手順を書き示す。
- グループ内の役割分担を明確にしておく。

- なるべく少人数のグループからスタートする。
- ミツルさんとうまくかかわりがもてる子どもを同じグループにする。
- ミツルさんが、参加できそうな活動で、友だちとかかわって遊ぶ経験を普段から増やしていく。

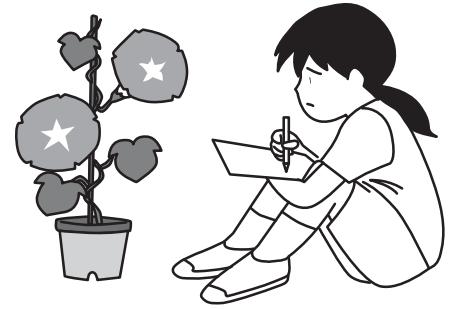
- ハンドサインやジェスチャーなどで、意思表示をする練習をする。
- 「考え中です」「待っていてください」「ヒントをください」など、考えをまとめたり、整理したりする時に便利な言葉を掲示しておく。

形の特徴をつかむことが難しい

ナオさんは、目の前の物をよく見て形に表したり、模倣したりする活動にあまり意欲を示しません。なかなか始めようとしないので、先生は「よく見ればできるよ」と励ましますが、うまくいきません。

子どもを観る視点例

- 対象のどんなところを見ようとしているか。
- 苦手とする絵の題材の傾向は、どのようなものか。
- 体育の動きで困難さをしめす時の様子は、どうであるか。



よく観察してみると

「よく見て描いて」と、言われても、何を見たらよいのか分からないようで、困っている様子です。自由に絵を描くことは、好きなのですが、特に写生は苦手なようです。また、運動会に向けてのダンス練習では、モデルを見ながら踊りを覚えることに時間がかかります。

推測できるつまずきの要因

対象の向きや位置を見てとらえることが難しい

自分の手足の向きや動きをイメージしにくい

「よく見て」と言われても、どこを見たらよいのか分かりづらい

支援プラン

- 「右から何本目」「一番左の線だけが向きが違う」などと、細かい特徴を言語化したり図示したりする。
- 花の形、大きさ、色などを一つずつ観察できるカードを作り、それを見ながら特徴を確認して描いてみる。

- 運動のパターンや覚えてほしい動きを事前に、イラストや写真で示したり、言葉をカードに書いたりして確認する。
- 手を添えながら、必要な動かし方や力の入れ方が体験できるような運動を本人の様子を見ながら繰り返してみる。

- 「花びらは何枚か」「右手の位置はどこかな」というように見るべきポイントを端的に言葉で示す。
- 形の把握をしやすく、イメージしやすい具体的な言葉で伝える。
- 見るべき具体物等を指差しして確認する。



文章題が苦手

トシオさんは、計算問題は得意で意欲的に取り組むのですが、文章題になると、どんな計算式にすればいいのかが分かりません。テストの文章題は、読もうともせず白紙で提出することが少なくありません。

子どもを観る視点例

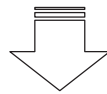
- 文章題で何を求められているか理解できているか。
- 問題文を読んで、内容をイメージできるか。
- 立式をしやすいようになるための方法を何か身につけているか。
- 国語の読み取りや音読の様子はどうか。



よく観察してみると

国語の音読では、一文字一文字をたどりながら読み（逐次読み）、上手に音読できません。算数の文章題では、自分一人では、なかなか取り掛かることが難しいですが、担任が問題文を一文ずつ読むと、取り掛かることができます。また、キーワードに印を付けたり立式までの手伝いをしたりすると、答えを出すことができます。

推測できるつまずきの要因



文章を読む力が弱く、意味が理解できない

問題文の内容をイメージすることが難しい

計算式に置き換えられない

支援プラン



- 問題文は、一文ずつ改行したり、文節の区切れごとに斜線を引いたりして読みやすくなるように工夫する。
- 問題文は、教師が一度読む。
- 複雑な問題文は、考えやすいように、短く簡単な文に直したり、内容を整理したりする。

- イメージしやすいように、身近な題材を使った問題文にする。
- 一文ずつ自分の言葉で説明できるように時間を保障する。
- 数の関係では、問題文の内容を再現できるように、人形やパネルシアター、ペープサーなどで演じたり、具体物を使って操作したりする。

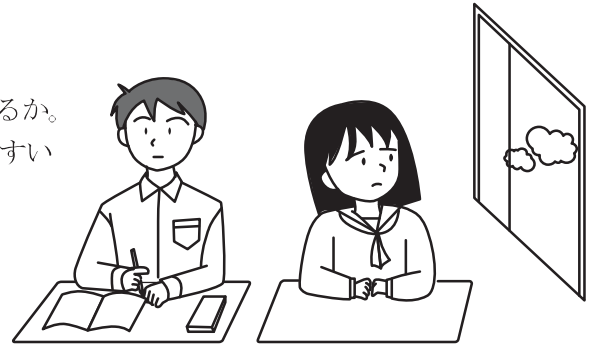
- 「のこりは」「一人分は」などのキーワードに注目できるよう、下線を引いたりマーカーで色を付けたりして、ピックアップしやすいようにする。
- 図や線分図、面積図など視覚的な手掛かりを使い、問題文の意味と式をつなぐようにする。

指示の通りに動くことが難しい

ケイコさんは、ぼんやりと外を見ていて話を聞いていないことがよくあります。また、複数の指示を聞いても1つしか実行できなかったり、言われたことを忘れてミスをしてしまったりして、指示の通りに動けないことが多く、先生やお母さんに注意されてしまいます。

子どもを観る視点例

- 指示を聞いているときに、どんなことをしているか。
- どんな指示の内容やどのくらいの量が分かりやすい様子か。
- 指示内容をどのくらい覚えていられるか。



よく観察してみると

ケイコさんの注目が担任に向いていることを確認してから話し始めると、指示通りに動けることがあります。しかし、長い説明をしたり複雑な指示を出したりすると、注意の集中が途切れてしまうのか、手いたずらを始めてしまいます。また、指示をしっかりと聞き、「わかったよ」と答えても、うっかり忘れてしまい、後から言われて思い出すことがしばしばあります。

推測できるつまずきの要因

注意を集中させたり、聞き続けたりすることが苦手

言語理解の力が弱く、
複雑な言葉の理解が
難しい

聞いたことを短時間覚えておくことが苦手

支援プラン

- 教室の座席は、前列や担任の目の届きやすい場所に配置するなど、できるだけ集中できる場所にする。
- 話をする前に、「これから大事な話をします」などと伝える。
- 興味や関心があるものを話題として取り上げ、注意を引く。
- 聞き逃してしまったときは、個別に話す。
- 例えば「話を聞くときは、相手の顔を見る」というような約束を決めておき、思い出せるように掲示しておく。

- 言葉による指示は、短く端的に伝える。
- 実物や実際の動作、写真、絵などを言葉と結びつけながら提示する。
- ストーリー性のある場面の絵を見て、誰が何しているか等を聞き出す。

- 大切なことは箇条書きに板書する。
- 大切なことはメモをとる習慣を育てる。
- 手順確認表やチェックシートなどを活用して話を聞く。
- 分からないときは「分かりません」などと、聞き返す方法を身に付けるよう指導する。

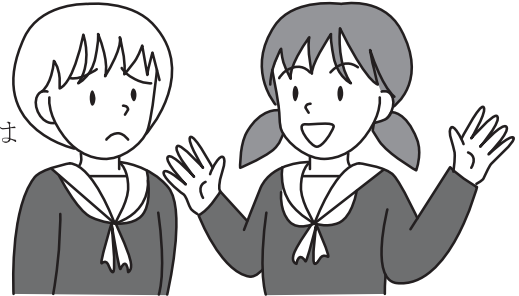
11

ことばで相手に伝えることが難しい

ハルカさんは、友だちと話をすることが大好きです。でも、話の内容が前後したり、飛躍したりしてしまい、相手に分かりやすく話すことが苦手です。

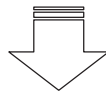
子どもを観る視点例

- 話し方や話す速さに何か特徴が見られるか。
- 一方的に話したり、話の内容が飛躍したりすることはないか。
- 自分の気持ちや意見を表現しているか。



よく観察してみると

話の中で、「これ」「それ」などの指示代名詞が多くなったり、「あれ、何だっけ？」と、話が中断してしまったりすることがよくあります。作文を書くときには、文脈が整理できず、まとまりのない文章を書いてしまいます。



推測できるつまずきの要因

語いが少ない

文章を構成したり、考えをまとめたりすることが苦手

状況や自分の気持ちを表現することが苦手

支援プラン



- カルタなどのゲームを通して、楽しみながら、語いを増やす。
- 日頃から、言葉を引き出せるような声掛けを工夫する。
- 既習の単語を仲間集めて分類し、教室内に掲示する。
- 1分間スピーチなどを継続して行う中で、話し方のモデルを示す。

- その時の状況や気持ちを思い出しやすいように、写真や絵カードを用意して、一緒に見ながら、「どこに行ったかな」と聞いて、言葉を引き出す。
- 「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」の項目について、メモをして、順番に並び替え、メモを見ながら話す。

- 気持ちを表すことばを、表情カード等を使って提示し、選択できるようにする。
- 「話したい」気持ちを受け止める。「～ということなのかな」などと、時間をかけて聞きながら、不十分な部分を補う。「分かってもらえた」「伝わった」という喜びを感じられるようにする。

整理整頓が苦手

12

トオルさんは、片付けや整理整頓が苦手で、いつも机の上や周りに物が散らかっています。先生から、片付けるように言われるのですが、「めんどくせー」と言い、一人ではなかなか片付けることができません。

子どもを観る視点例

- 見たことや聞いたことをどのくらい覚えられるか。
- 物の形や色、状態を識別する活動に意欲的か。
- 探している物がすぐに見つかる気持ちよさをイメージできるか。



よく観察してみると

担任の先生が、一つ一つ声を掛ければ片付けることができますが、一人だと面倒になって散らかしたままにしてしまうことがあります。また、使い終わった物とこれから使う物とを見極めることができず、何から何まで机の上やその周りに散らかっています。「片付けなさい」と言われても、どこからどのように手をつけていいのかが分からない様子です。



推測できるつまずきの要因

どこに片付けるかを忘れてしまう

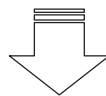
必要な物と不要な物とを区別することが難しい

やり方の手順をうまくイメージできず、整理整頓のコツがわかりにくい

支援プラン



- どこにしまえばいいのかが分かるように、写真をはったり、図や見出しを付けたりする。
- まず、箱を用意し、そこに片付ける習慣をつける。
- 種類や教科ごとに色シールをはり、色ごとに分ける。



- 机の中には、これから使う物を入れ、使い終わったら、使い終わった物を入れる箱の中に入れていく。
- 授業が終わるごとに、クラス全体で、机の上を片付ける時間をとり、習慣を付ける。
- 「使う物はどれかな」などと、できるだけ声をこまめに掛けて、先生や親が子どもと一緒に区別して分ける。



- カバンの片付けの手順表を作り、それに沿って片付けられるように声を掛ける。
- 整頓する順番にそって、番号を付ける。
- 整理整頓の見本となる写真や絵を提示する。

衝動的な言動が多い

13

ケンタさんは、当番活動をしていないことを友だちに注意されると、「うるせえ！」と大声を出し、持っている物を投げつけることがあります。また、国語の授業では、「漢字が書けない」と言って、ノート破ってしまうこともあります。

子どもを観る視点例

- 言われたことを理解しているか。
- 自分の感情をどのくらいコントロールできるか。
- 状況を判断するのが難しくなるのは、どんな場合か。
- 相手の気持ちを思いやろうとする様子は見られるか。
- 語いが少なく、自分の思いを表現できていないか。



よく観察してみると

トラブルが起きると自分の気持ちを上手に伝えられず、大きな声を出したり、相手につかみかかったりします。また、相手の気持ちを考えずに思いついたままのことを口にしてしまい、トラブルになることがよくあります。苦手な教科の授業では、出歩いたり、ノートや教科書を破ってしまったりすることもしばしばあります。

推測できるつまずきの要因

気持ちを上手に伝えられなかったり、相手の気持ちを理解しにくかったりする

自分で自分の行動をコントロールする力が弱く、思いつくとすぐに行動してしまう

問題解決の手段として、目立ったり暴力的だったりする行動をとってしまう

支援プラン

- ケンカの後、落ち着いてから、出来事を思い出し、イラストなどを使って整理しながら、状況と相手の気持ちを考えてみる。
- 気持ちを伝えることばを代弁し、伝えるための語いを増やす。
- 気持ちを切り替えるような合い言葉を決めておく。

- がんばったことを「振り返りカード」など目に見える形で評価して、コントロールできたよさを振り返る。
- イライラしたときの対応方法を子どもと相談しながら決めておく、うまく乗り切れたという体験を増やす。
- 行動する前に一呼吸をつくように、カウントする習慣をつける。

- どのように行動すればケンカをせずに問題を解決できるかを考え、ロールプレイで体験してみる。
- 我慢できたときに、短い言葉で必ず称賛する。
- 注目を得ようとしてやっている行動については、取り合わない。
- 暴力的な行動をとった時の約束を日頃から決めておく。

興味・関心に偏りがある

ナオトさんは、大好きな恐竜の話になるといくらでも話し続け、細かな絵を描くことができます。しかし、みんなと一緒に活動することが苦手で、体育や図工、集団での活動や遊びなどに誘っても、ほとんど加われません。

子どもを観る視点例

- 興味・関心・生活経験の幅は、どのようか。
- 感覚に過敏なところや、苦手な刺激はないか。
- 集団活動や遊びの見通しをもつことが苦手か。



よく観察してみると

ナオトさんは、休み時間には、いつも恐竜の本をそのまま再現するような絵を描いて過ごしています。しかし、みんなが集まってくると、その音を避けるように耳をふさぐ様子が見られます。初めての活動が特に苦手で、不安そうに周囲の様子を見ていることが多くあります。しかし、2回目以降は、抵抗が減っていくようです。

推測できるつまずきの要因

強いこだわりがある

感覚過敏があり、苦手な感覚がある

新しい事に取り組むことが不安

支援プラン

- こだわりを受け止めつつ、生活の中で興味・関心の幅が広がるよう、好きな友だちや先生、保護者が一緒に楽しい雰囲気を取り組む。
- 自分の興味が深い分野の知識が役に立つような機会を設け、活動や遊びに生かす。

- 感覚過敏があることを理解して、不快な刺激が少なくなるように工夫する。例えば、大きな音に対して、耳栓やイヤーマフをしたり、まぶしさに対して、カーテンを閉めたり、蛍光灯を付ける数を減らしたりする。
- 苦手なことでも、取り組めたことを大いに称賛する。

- 活動に見通しがもてるよう、スケジュールや活動の手順表など視覚的な手掛かりを用意する。
- 事前にどのようなことをするのか、ビデオや写真で見ることができるようにする。
- 見学や途中までの参加により、スモールステップで参加できるようにしていく。

場面の切り替えが難しい

15

ジロウさんは、休み時間が終わっても、教室に戻らず、ブランコに乗っていることが多く見られます。また、体育の着替えや帰りの支度の際も、みんなを待たせてしまいます。

子どもを観る視点例

- 指示の聞き取りや状況の理解は、できているか。
- 遊びの場面で、友だちの声掛けに気付いているか。
- 今していることの次の活動の見通しをもっているか。
- 手指に不器用さがあって行動に手間取ることはないか。



よく観察してみると

ジロウさんは、好きなことや興味があることに夢中になってしまい、チャイムが鳴っても気が付かないことがあります。また、準備にどれくらい時間が掛かるか見通しもなく、ぎりぎりに準備を始めます。帰りの支度をする時にも、物を落としたりカバンへ入れるのに手間取ったりして時間が掛かります。

推測できるつまずきの要因

注意集中の面で偏りがあり、周囲の動きに気付けない

時間の見通しがなく、活動の切り替えが遅くなってしまふ

手、指先の巧緻性にぎこちなさがあり、作業に手間取る

支援プラン

- 休み時間など教室で過ごしている場合には、『終了3分前カード』などの大判カードを掲げ、本人が気付くように視覚的にも働きかける。
- 一緒に遊んでいる友だちに、教室へ戻る時は、毎回、声を掛けて誘ってもらおうようにする。

- 本人が自覚できるように、普段からタイマー等を使って、それぞれの活動にどれくらい時間が掛かるか計っておく。
- 活動の流れや手順を黒板に箇条書きで大きく書いて示し、時計の図を使って視覚的に時間の経過を理解し、見通しをもちやすくする。

- みんなより先に個別に声を掛け、次への準備の時間を十分にとる。
- 「フタを開けるなどの指先を使うこと」や「はさみを使うなど利き手と補助動作の手との使い分けをすること」などを家庭でも多く取り入れてもらう。

予定変更の受入れが難しい

16

タツヤさんは、急な時間割の変更や途中で予定が変わると不安定になり、こだわりが強くなったり、何もできなくなってしまったりします。

子どもを観る視点例

- 口頭での指示を理解できているか。
- 本人が予定の変更を受け入れるためには、どのくらい前にそれを伝えればよいか。
- 好きな活動への変更なら喜んで受け入れるのか。
- 予定変更が生じて不安定になってしまった場合、どのようにすれば落ち着きを取り戻していけるのか。



よく観察してみると

運動会や音楽会などの行事の学年練習が急に入るなどの変更があると不安定になります。日頃から、教室に掲示してある時間割や月間計画、献立表等をよく見えていて頼りにしているようで、予定通りに活動が流れれば、安定して過ごしています。また、あらかじめ雨天時案などを伝えておけば、やや不安定になっても回復までにあまり時間が掛からないこともあります。新しい活動や単元に入る時、口頭での説明だと見通しがもてないのか少し不安感を示すことがあります。そういう時は、気持ちの整理をつけるために、少しの間、絵を描いたり教室の後ろを歩き回ったりしています。

推測できるつまずきの要因

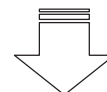
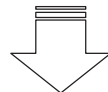


決められたことへのこだわりがある

予定が変更されると、活動の見通しを持ちにくい

口頭による説明だけでは、活動のイメージが持ちにくい

支援プラン



- 時間割を変更する場合は、少なくとも前日に伝え、さらに当日の朝、再度確認する。
- 急な予定変更などは、全体説明の前に、個別に説明しておく。
- 短時間でクールダウンできるのであればその時間と場所を保証する。

- 普段から雨天時案を示しておくなど、予定の変更があり得ることに徐々に慣れていけるよう配慮する。
- 視覚的に確認できるように、時間割の変更は教室の時間割黒板を用いて説明し、変更後の時間割を明示する。

- 文字や図、絵を使って活動内容を視覚的に伝える。
- 新たな活動では、手順を箇条書きで示し、見通しを持ちやすくする。
- いつでも確認できるように、予定の変更や活動の手順を自分でノートに書く機会をとる。

17

行動が遅い

ミキさんは、着替えや準備・片付けなど、行動への取り掛かりが遅く、とても時間が掛かります。間に合わないことも多いので、いつも周りから「早くして」と、せかされています。

子どもを観る視点例

- 指示を聞いている時は、どんな様子か。
- 周りが行動を始めた時に、どうしているか。
- 一つ一つの動作（操作）の様子はどうか。
- 忘れ物やなくした物は多くないか。整理整頓の様子はどうか。



よく観察してみると

指示されている時に、他のことが気になったり、ぼーっとしていたりして、内容を聞くことが難しいようです。また、「2時間目の体育に間に合うように行動してね」「これとこれをやってから、次はこれ」といった指示では、まず何から始めたらよいのか、どうやってやるのかが分からないようで、周りの様子を見回していることがあります。更に、友だちの動きや周りの音で注意がそがれて、別のことを始めてしまうこともあります。

推測できるつまずきの要因

どこに、あるいは何に注意を向けてよいのか分からない

指示の具体的な内容を理解するのが苦手

見通しを持って行動することが苦手

支援プラン

- 肩に触れたり、机や黒板を軽くたたいたりして、注意が教師に向いたことを確認してから話す。
- 集中できるように机の上や周囲の環境を整える。
- 刺激となる物は、見えるところに置かない。
- 集中できる好きなものを教材に活用する。

- 一回に複数ではなく、一つの指示にする。
- 「ちゃんと片付けて」といった曖昧な指示ではなく、「机の上の物を全部かばんに入れよう」というように具体的な指示をする。
- 短時間で取り組める課題を準備し、やり終えたことを評価する。

- やることの手順を簡潔に示す。例えば、「①あいさつ」「②めあての発表」「③おしごと」「④がんばったことの発表」など。
- 何から始めるのか、いつ始めるのか等、始まりの部分を意識できるようにより具体的に伝える。

忘れることが多い

18

マサコさんは、忘れ物や指示されたことを忘れてしまうことがとても多く、いつも先生や同級生に注意を受けています。

子どもを観る視点例

- 指示に対してどのくらい気持ちを向けていられるか。
- 言われたことをどのくらい覚えていられるか。
- どのような刺激に影響を受けやすい傾向があるか。
- 整理整頓に心掛けている様子は見られるか。



よく観察してみると

マサコさんは、宿題や持ち物等を忘れることが頻繁にあります。また、家庭へのお便りを見せるのを忘れてしまうので、提出物や集金等も期日に間に合わないことがしばしばあります。口頭での指示に対して、「先生は、何て言ったかな」と確認すると、「忘れた」と答えます。また、机やカバンの中は常に乱雑で、お便り等もカバンの中には入っているのですが、どこに入れたか自体を忘れてしまうようです。学校では、メモを取るように指導していますが、あまり効果は見られません。

推測できるつまずきの要因



刺激に影響を受けやすく
注意を持続する時間が短い

耳からの情報を記憶しておくことが難しい

整理整頓をすることが苦手

支援プラン



- 話し始める前に、肩に手を置いたり、アイコンタクトを取ったりして注意を促す。
- 話の内容を端的に分かりやすく伝える。
- 視覚的に分かる注目カードなどを提示してから話し始める。

- 全体連絡をした後に、個別で説明をする。
- 期日や時刻、場所、持ち物などをメモする時間を確保する。
- メモを入れるカバンのポケットを決め、必ずそこに入れることを徹底する。
- メモされているか、所定の場所にあるか家庭でも確認する。

- 本人が管理する物を減らす。
- 写真やイラストにより、何をどこに片付けるか分かるように明示しておく。
- 配布物や提出物を入れる専用のクリアファイルを用意し、家庭と連携して活用する。

授業中に席を離れてしまう

タケシさんは、授業中や座っているべき時に、自分の席を離れてしまうことがよくあり、先生からいつも注意されています。

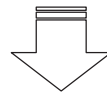
子どもを観る視点例

- どんな時に着席していただけるか。
- 席から離れてしまう時は、どのような場合か。
- どのくらいの時間は着席していただけるか。
- 注意を受けた後の行動はどのようなか。
- どんな刺激に影響を受けやすいか。



よく観察してみると

教室の外からの音、他の子どもがやっていることや教室の掲示物等に注意が向いてしまうと、それに引きずられるように、つい立ち歩いてしまうようです。全体への指示では、内容を理解していないことがあります。個別的に席に戻るように言うと、その指示には従うことができますが、すぐまた同じような行動を取ってしまいます。



推測できるつまずきの要因

視覚的あるいは聴覚的な刺激に影響を受けやすい

全体の指示では、内容を理解していない

集中できる時間が短い

支援プラン



- 座席の位置は、窓側などは避け、できる限り刺激が少ない席にする。
- 黒板だけに集中できるように、教室前面に掲示物を隠すようなカーテンを付ける。
- 周囲の子どもの座席にも配慮し、集中しやすい環境をつくる。

- 指示を出すことをまず告げ、こちらに意識が向いている時に話し掛ける。
- 分かりやすく、端的に具体的な指示をする。
- 全体への指示の後に、さりげなく個別に指示を行う。
- 着席してしっかり聞いている時をきちんと捉え、日頃から認めていく。

- 集中できる時間を把握し、例えば、15分を区切りとする学習を組み立て、授業の流れを一定にする。
- 立ち上がりそうな時に、プリント配布などのお手伝いをお願いします。
- 授業中や休み時間に、十分に体を動かさず場面を設定する。